

# 野外活動中の安全対策

～ 事故を未然に防ぎ、楽しい活動にしましょう！！ ～

福岡県立英彦山青年の家

野外活動は、自然の中での活動のため、安全上の注意を怠ると大きな事故につながりかねません。安全管理対策をしっかりと行いましょう。

詰め込みすぎた余裕のない活動計画では、参加者が疲労や注意力不足の状態となり、事故・ケガにつながりやすくなります。無理のない計画にしましょう。

想定できる危険を予知し、回避するための対策を引率者で連携しながら行ってください。下見や施設職員との打ち合わせは必ず行いましょう。

野外活動は、危険を予知し回避するための能力を身に付ける絶好のチャンスです。どこが危険なのか、どうしたら危険を防げるのか、考える機会をつくりましょう。自分の身は自分で守る意識をもたせましょう。

## 危険があるのは？

- 1 動植物・・・ヘビ、ハチ、ムカデ、ハゼ、ウルシなど
- 2 地理的条件・・・登山路(岩場、急斜面、山道)、捻挫等のけが、道に迷うなど
- 3 刃物用具や火の使用・・・ナタ、包丁による切り傷、野外炊飯、キャンプファイヤーでのやけどなど
- 4 指導者側の過失・・・無理な計画、下見の未実施、引率者間の共通理解不足など

## 準備しましょう！

- 1 綿密な計画立案及び安全上のチェック
- 2 下見の実施と事前打ち合わせ  
※下見のポイント
  - コース及びエリアの確認
  - 想定される危険と対処方法・引率者の配置
  - 緊急車両の手配と搬送経路の確認・医療機関の確認
- 3 救急医薬品の準備
  - 救急セット【例】  
傷口を洗い流す水(ペットボトル)・消毒薬・カットバン・三角巾・包帯・ガーゼ・サージカルテープ・  
湿布・生理用ナプキン・とげ抜き・虫よけ・かゆみ止め・テーピング・アイシング用品など
- 4 参加者への連絡
  - 常備薬の持参
  - 活動に応じた服装の着用(帽子、スズメバチ対策として白っぽい服装、長袖・長ズボンなど)
  - 保護者の緊急連絡先の把握